

対談

「対談」 出縄 明氏と55年の記憶の中で

日 時 平成27年1月14日
場 所 進和あさひホーム
対談者 出縄 雅之(進和学園理事長)
浅井 一志(清和会理事長)

浅井 明けましておめでとうございます。前年度は遠近教英初代県障害福祉課長と対談をさせて頂きました。今回出縄さんをお願いしたのは、一昨年山中政治さんが亡くなり、昭和30年代初期の施設を知の方がいなくなりました。当時を知る方が出縄雅之理事長しかいませんので、語り部として登場していただきたいということです。

進和学園の創設は昭和33年6月1日に創設されましたが、私は進和学園が今日あるのは出縄家のご家族の支え、地域とのかかわり、多くの職員の協力があり、創設の時から目の前に困った方が居られると助ける、そして利用者と共に働くことを基本に障害者のよりよい暮らしを支えて来られたのではないかと。そしてそのことが「ひとりひとり」につながるのではないかと考えています。



進和学園理事長 出縄雅之氏

さて、私は出縄 明前理事長を先生と言ったことはありません。俳号の明夫さんと呼んでいましたので、それをお願いします。口火は家族の支えから。

一 家族の支え

出縄 うちの兄の出縄 明は、平塚盲学校の教師をやっていた、そこで知的障害とハンディを持つ女性と出会うわけです。それがきっかけでしょうか。ただ一人では出来なかったのも、俳句仲間の浅井さんを口説いたのでしょうね。

出縄家は八人兄弟でして、親父は昭和31年に亡くなり姉は体調不良でした。兄たちが頑張って出縄家の生活を支えていました。出縄 明は二番目ですが、一番上は出縄光貴、この二人が頑張ってくれました。兄の明は結核にやられて片肺は切除しています。当時は大手術で、片肺をなくし生きて来ました。母親に八人、すごく貧しかった苦しい中で、出縄兄弟も出縄 明が知的障害の施設を開設したいのなら、全面的におふくろ以下皆が賛同を得なければならぬ。たいしたことはないのですが親父の家屋敷を提供させてもらって、進和学園をしようと思いました。人的には浅井さんが

対談

兄と一緒に、勿論無給というか、何も見返りはないわけですから。

浅井 創設の時からお母様からご兄弟まで、それぞれの立場で協力があつてこそ、今日の進和があるわけで、長い間の地域への働きがまた支えになっていますよ。

一 俳句とのかかわり

浅井 私は頼まれたら嫌と言えない性格で明夫さんはよく知っていたんだね。明夫さんは結核療養所が都下の清瀬にありそこで俳句を作っていました。清瀬は石田波郷がいて句集「惜命」を出し「療養俳句」と言われるくらい当時は若者が多くいましたが、後に芥川賞を取る人もいました。しかし結核は死病といわれて多くの方が亡くなりました。

明夫さんは清瀬を退院して、飯田蛇笏門下の「雲母」同人西嶋麥南さんの鎌倉句会に出席し、私と共に20歳代の出会いでした。西嶋麥南さんは岩波書店に勤務され、出版界では「校正の神様」といわれて日本の校正の元を作り「文化人間賞」も受賞しました。

西嶋さんは仕事を岩波茂雄。俳句は飯田蛇笏。絵画は岸田劉生。武者小路実篤の「新しき村」に入りました。それに小林秀雄ともつながり、ともかくいづれも日本の文化人一級の方々ばかりで驚きです。その西嶋さんから自分はこうした仕事は出来ないが若い二人に何とか仕事をまっとうしてもらいたいと言われたんですよ。

出縄 とにかく一流の人達ですよ。こうした人達が応援してくれる。円覚寺の朝比奈宗源さんもそうですよ。

浅井 紅梅学園はノーベル賞の川端康成氏の施設建設の募金の趣意書などもそうですね。山中政治さんも見ていない現物を数年前に古書展で見ましたよ。

出縄 西嶋麥南先生は、若い人達にすごい影響を及ぼしたと思うんですよ。そうでなかったら普通考えられないですよ。二人とも公務員でいたわけだから。

浅井 明夫さんは、毎日俳壇賞を二度飯田龍太先生より受けています。

出縄 兄の明も浅井さんも飯田蛇笏先生の門下で自宅(山廬)へ行った話を聞いています。

一 進和学園開設準備

浅井 いつの日か句会への欠席が続きどうしたかと思っていましたが、後でわかったのは小田原の光海学園に入り廣瀬与一さんのところで勉強、体験を明夫さんはされていたのです。

出縄 光海学園の廣瀬与一さんは兄が実習でお世話になったので、兄弟施設と言うことで、いろいろなアドバイスを受けたね。

浅井 昭和32年に昭和33年4月知的障害児童施設開設ということで、厚生省・神奈川県等へ提出の書類作りの手伝いをしました。明夫さんのところは句会をしたり、お父さんの葬儀にも参加してましたから、すぐ理解できましたね。当時、理事長は早稲田の学生でしたよね。

対談

出縄 そうそう、そうでした。私は身体を動かす方で手伝っていました。

浅井 ともかく当時の施設はひばりが丘学園（昭和 24 年設立）その後光風園（昭和 28 年設立）、そして光海学園（昭和 29 年設立）の法内施設だけです。

昭和 29 年は神奈川の知的障害福祉の節目の年で、恵和学園（横浜市）・紅梅学園（当時鎌倉市）が自由契約施設としてスタートします。素心学院は昭和 30 年開設。進和学園開設前はそれ位でした。恵和学園・紅梅学園は先駆的な施設ですよ。

出縄 施設はまったく不足していました。

浅井 明夫さんの遺産を解放して、それで施設作りを個人でというのは全国的にも初めてで、年齢は 32 歳か 33 歳だったかな。

出縄 32 歳だと思います。

浅井 私は 26 歳なんです。こんな若者二人でいったい何やるんだということで、県の方もびっくりしたと思うんですね。

出縄 よく認可しましたよね。とにかくバックがまるっきりなく、完全な個人ですよ。それも 32 歳そらの若者でしょう。

浅井さん手伝ってくれましたけど 26 歳だったんですか。その若者二人が施設を始めるといふ。今と違って補助金はなく全部自己資金、家屋敷と言ってもバラックに毛のはえたようなものですものね。浅井さんが手伝ってくれたから始められた。そういう意味では浅井さんは進和学園の産みの親だと思います。

浅井 創設までのことといえば、法政大卒

の主任指導員になるという方がいて、経験がないので「ひばりが丘学園」に実習に出したらということで県に実習申込書を提出しました。決裁が終わって行く段階になると就労しないということで空きが出て、明夫さんも最初なので困惑していました。

結果的に「一志さん頼むから実習に行ってくれ」ということで実習の代行をする羽目となりました。これが一生を左右することになるのですから、人生なんてわかりませんよ。



清和会理事長 浅井一志氏

「ひばりが丘学園」では、田ヶ谷・寺田・舟橋・徳井さんたちが役割を持ち、菅修園長を支えていました。こちらは代行だから後任に引き渡す資料も含めて熱心に教えを乞いました。

実習期間中に鈴木さんという少年が亡くなったのも強く記憶にあります。結果的にこの実習は、創設まで人が埋まらず県より実習生は「ひばりが丘学園」からよく仕事の出来るので、代行かも知れないがやらせなさいと言われたと明夫さんからの話、二・三年続けてとの要望がでました。まさか県からの実習生の推薦など考えもしませ

んでした。

出縄 進和学園にとっては良かったのですよ。寺田昭二さんは獣医の資格のある方でしたね。

浅井 田ヶ谷さんは国家公務員の一級合格の心理専攻の方。本来なら厚生省とか法務省の官僚でしょう。それが「ひばりが丘学園」に就職。

出縄 田ヶ谷・寺田さん・兄や浅井さんを含めて何ていうかマニアという感じがしました。児童福祉法が出来たから「ひばりが丘学園」を作り、知的障害児に対する施策はほとんどない。県もお茶を濁している感じでしたね。

浅井 開設までに県はいろいろ注文をつけてきました。新設だから寝具はすべて施設で用意しなさいという。県立施設は家族が用意していましたけれど。実習で調査済なのに。そのため、私はリヤカーを一人で引き平塚市内の質屋を回り布団を安く集めました。バスのない時代でいささか寒い時のことです。他にもいろいろあり、当時相模原に「しらかば」とかいふ児童施設作りの動きがありましたが、潰れたのでその影響かもしれません。

4 月開所は困難となった時、今では進和学園の職員も知らないと思いますけど、明夫さんは開設促進の血判状を県に提出したのです。私もこれで本気だということを感じました。これは大きな覚悟ですよ。時代的かと言われるかも知れませんが伝えておくべきことです。

対談

出縄 血判状の話は、進和学園にも話だけは伝わっていますが、でもほとんどの職員はもう知らない。神奈川県を訴えた脅しですよ。県に施設を始めさせろというかけ合いをしたわけですね。若気の至りとはいえ良くやったものです。

一番苦勞かけたのは浅井さん。俳句の縁で引っ張り込まれ、浅井さんの人生を変えたと言ってよいわけですから。私は、学生でしたから自由で、何かあると浅井さんのもとの一緒に金槌を振っていました。トイレの問題もありましたね。

浅井 トイレは遠近さんが監査係で施設に来ましたが、不衛生とか言って改善を言われたのです。お金がないので改善はできないと言いました。

何しろ汲み取り式で、天秤棒で桶を担ぎ肥溜めに運んでいましたから。そしたら遠近さんは園長の明夫さんのところへ行き、同じことを言いましたが、同じ答でした。

そこで、らちがあかないので県庁に持ち帰り、補助金がないので改善ができないと報告されたそうです。

小役人ならそれで終りですが、遠近さんが違うのは、予算の時に上層部へ上げてもらい最後は知事まで上げてもらった結果、知事が理解してくれて 30 万円を補助金として出すということになりました。

のちの津田知事です。この補助金は昭和 35 年精神薄弱者福祉法制定の際、自由契約施設の法内施設移行に力を発揮します。つまり補助金を出すため財団法人化を図っ

対談

たのが、三代目障害福祉課長の高木正一郎さん。これにより 30 万円の補助金が生きたのです。

出縄 進和のトイレ問題もちよっとは役に立ったのですね。もう笑い話ですけとね。

電話も引けなかったんです。施設に電話がないので前の家に電話を借りて連絡していました。昔のことですから「おい電話だよ」で飛んでいった。電話を一本引くのに花水橋の東海道 1 号線から引かねばならない。費用は田んぼ一反売らねばならない。そういう時代の貧しさでしたね。

一創設期の進和学園一

浅井 そんな訳で昭和 33 年 6 月 1 日進和学園はスタートしますが、小島ハナコさんの失踪事件が起き、一瞬前田直蔵先生の恵和の死亡事故を思い責任を取らざるを得ないと思いましたが、津久井出身の自然児ですから、沢で遊んでいました。思い出は沢山ありますが、進和の方向性の確立があった事柄を言い残すことも大事かも知れせんね。

私は、第一に目の前に困った人がいれば手を出す。第二に重度を受け入れる。第三に地域とのつながりを大事に。第四に働くことを基本に。第五は利用者の暮らしを今より上げる努力をと考えていました。

出縄 進和学園の開所のときは学生でしたので、職員としては体験していませんが、実家が施設になった訳ですから、他に行くところがない。施設の中で浅井さんと自分たちの部

屋がないので、押入の上下で寝ているという状態でした。大方は承知しています。今考えると福祉はすごい時代でしたよ。

浅井 児童福祉法も起居をともにすることと明記していました。

出縄 貧しさ、社会的認知のない上、金もない何もない青年二人の志だけなんです。県の方も困られたと思いますよ。

浅井 当時は児童 10 人に対して職員 1 人ですから定員 30 人でしたから 3 人。週休 1 日 48 時間勤務なので一週間 7 日の内、3 日は二人で早出・遅出・宿直をしなければならず、病気も出来ない。赤痢菌保菌者が出た時は、病院の方から見る事が出来ないで職員をとということで、24 時間何回も泊まり込みもしました。

そうそう進和の資料に児童施設の定員 40 名となっているが気になりますね。

出縄 定員 40 名になったのは昭和 35 年ですね。

浅井 職員 3 名では回らないので、私が給与半分にするから園長も半分にして、職員 1 名増やそうとして 4 名にしました。これで回るようになりました。

出縄 それで瀬戸さんが増えたのか。私も二年で良いから手伝えと言われそれで職員になりましたが、その二年間はほとんど給料もらわないで仕事をしていました。

浅井 そうでしょう。

さて話は戻りますが、「目の前に困った人がいたら受け入れる」ということは、平塚地区担当の小川譲三児童福祉司がいまし

対談

て、平塚の金目という所に目も離せない動きで柱に縛りつけられている子がいるが、「ひばりが丘学園」でも入れてくれない。こういうのをやらないのは意味がないなど言われ、新施設ではまだ落ち着かないので、無理と言ったものの頭を下げられてまずは現場を見てほしいと言われました。見たら私は駄目ですね。小川さんにしてやられました。重度の児童の受け入れの方向性が決まった。松田カズミさんがきっかけですね。



それと岡崎ユキオさんの母親の熱心さには頭の下がる思いがありました。茅ヶ崎から施設オープンまで日参でした。バスのない時でしたから忘れもしません。

出縄 だから浅井さん初め職員も入ってきた子供の影響はすごいものがありますよ。

浅井 初めが肝心ですね。それに澤田美喜さんのエリザベスサンダースホームから明夫さんが混血の児童を引き受けてきましたし、何か成人の居候も久保・時崎・川瀬・勝田・海老名さんなどもいました。普通施設で居候など考えませんが、それをやっていたんですよ。

出縄 結局行く所がないから家出同然で出て来た人達ですから預からざるを得ない。

近所のお寺を借りて共同生活をさせました。グループホームの先駆け。久保さんは結婚もさせました。

浅井 久保さんの両親は鎌倉清和学園創設に関連してまして 25 年間施設創設の障害者母親 7 名の一人として私が捜していた方だったのが最近わかったのですよ。富岡 梅さんの残したメモに記録されていました。不思議ですし、清和会も記念誌ができますよ。

出縄 久保愛之助・フジ夫妻でしたかね。

浅井 お母さんは、久保ナカといったかなあ。鎌倉清和学園創設には母親より父親の方が熱心だったとか。今回、元清和会理事長の富岡 梅さんのメモの中に、久保ナカの名前を見つけたのも何か因縁ですね。

出縄 居候の存在が成人施設（万田ホーム）を作らざるを得なくなったのです。昭和 41 年に更生施設を持っていたから一番ではないが民間では早い方です。

浅井 このような展開は必然性もありますが、福祉の仕事は常に新しいことにつながりますね。そこに挑戦があります。

一地域とのつながり一

浅井 次に進和と地域とのかかわりについての話をしましょう。

万田地区は、出縄さんの地付きということから切っても切り離せない。現在は都市化されていますが、当時は農村でした。野菜などいただく機会も多い。働くということと合わせて援農作業ということで田植え・草むしり・稲刈りなどの手伝いをしま

対談

した。児童もお茶請けなどいただけるので積極的でした。

理髪など店に入れてくれないこともありましたが、地域の皆さんが応援してくれることを痛切に感じました。それは出縄さんのずっと親の代からの長い付き合いの中で築き上げたことと同時に、出縄さんのお母さんの力が大きかったと思いますよ。

出縄 先祖代々の付き合いがありましたからね。

浅井 阪神大震災は出縄さんのお母さんが亡くなられた日なので、すぐに思い出しますね。

出縄 まあ地域密着といいますかね。

浅井 よく地域地域というが、進和は施設開設の時から地域を取り込んでいましたよ。そういうのが保育園を作り、市内の学校のトイレ清掃につながるのですよ。実践の中から次々に生まれて来ました。

出縄 やりましたね。さっきの居候の人たちの仕事として。

浅井 次に働くということに話を移しましょう。

先の援農作業の他に、竹藪を切り開いてグラウンド造成を機械がないので、手堀でした。また、八重久保の開発もしました。それから今につながっている椎茸栽培。椎茸栽培のはじめは、花水橋の高麗山の麓に神奈川県林業試験場がありまして（後に林業センターとして七沢に移転）そこで椎茸栽培の菌の研究をしていました。その研究の一環として手伝いも兼ねて始めたのが

皮切りです。記録も取り報告もしました。

最初はおがくずに培養した菌を原木に、穴を開け、おがくずの菌を入れて木の皮でふたをするやり方でした。次に菌の入った駒を埋め込む方式に変わりました。原木の天地返しや水遣りとか皆文句も言わずに仕事しました。

こうしたことが、本田技研の作業につながっていったのですね。それが職業センターに発展します。本田技研が一番上の兄さんの力が大きい。

働くという意味合いから本田技研の話に移りましょうか。

出縄 その前に教育の問題・児童施設の成人施設への移行の問題があります。

浅井 いわゆる施設の児者転換ですね。では義務教育問題から入りましょう。

—義務教育問題と児施設の者施設への転換—

浅井 障害児の義務教育化の問題は、児童施設の出来たところは免除・猶予の児童は施設の対応でした。ことにひばりが丘学園の入所は、精神病院に保護中から移行した関係で重度であり、光風園や光海学園も母体が精神病院でした。そして児童相談所は措置権がありましたが菅 修園長が入所審査会を仕切っていましたので、進和学園の入所まで集団見合いと当時言われていました。審査会で菅先生の判断で入所が決まりました。なにしろひばりが丘学園から重度を受け入れる不文律がありましたので。

時代が進んで昭和 37 年頃から国立大学

対談

に養護学校教諭のコースが出来。将来養護学校義務化の話が出てきました。

出縄 児童施設の課題は、教育が義務化されると対象児がいなくなるということで、なくなるのであれば児童施設を者施設にくら替えを考えるようになりました。当時はどういうわけか、児童施設が空いていたのですね。

浅井 私は昭和 44 年から七沢のリハビリテーションセンター建設にかかわっていました。ある日、明夫さんが県に見えられまして、児者転換の動向を聞きたいと言われました。早くしたらどうかと言われるので、早い方がよいので転換を進めました。ですから県下で一番早い児者転換を果たしたのは進和学園なのです。昭和 48 年です。

出縄 確かに児童施設は空いて 20 人位かな。それで民間として何をやるかと兄と話していました。そしてすぎな会の河村幸蔵さんの紹介を受けて、ソニーの井深さんと話をしました。

井深さんから進和学園の役員にご自分の想いを話したいということで箱根の別荘に参上し、そこで井深理論に啓発させられました。井深理論を簡単に言えば、障害者といえども働かなければならない。働くことで自分を獲得していくし、社会に役に立っていくという。

民間には大人の施設はないし、働くというのは児童より大人だから児童施設よりこちらをしようという選択になりました。

浅井さんが県にいて七沢の建設をされて

いました。渡りに船ですね。だから松田さんを初め、重度の児童を浅井さんにお問い合わせしました。

浅井 大野兄弟。岡野タケヒロ・川崎さんとか。

出縄 自閉症でしたね。移行が出来たから大人にシフト出来たのです。もしあの時浅井さんが七沢の担当でなければ、そう簡単に児者転換は出来なかった。ある意味、運命的と言いますか。

浅井 そういう運命的なことはいくつもあるんですね。進和の児童施設を作りその終焉を私がしたり、小川譲三さんが清和会の施設長をやり、病に倒れ清和会の後を頼むということで、私は県を定年前にやめて清和会に今日いることも松田さんの一件があったからこそです。それは小川譲三さんのつながりによります。

七沢リハセンターは昭和 48 年オープンですが、ここに陪席しています里見広報委員長や、出縄さん御存じの活動センターの渡辺徳男さんなどが若い時に苦労した人たちですよ。

里見 障害児など知らなかったからやれたのかも知れません。

—本田技研とのかかわり—

浅井 それでは本田技研とのかかわりについてお願いします。

出縄 先程の話に戻りますが、働ける方はよいのですが殆どの方は、一般就労は無理。しかしその人たちは働きたい。そこへ井深

理論が来る訳ですよ。タイミングがあっていくのですね。

それで一番上の兄が本田の社員だった。じつはその時は本田技研を辞めているんです。本田宗一郎氏は創始者ですが非常に気にかけていただき、当時の常務が見に来てくれました。そして、現場を見て「やれる」と言ったんですよ。

私どもは若くて県下に授産施設金沢若草園しかなくて、若気の至りで授産に取り組みました。それで一番上の兄を口説いて本田と結びつきました。国からは施設が一企業とだけ結びつくのは何事だと叱られました。

話は長くなりますが、事前調査で本田の社員の方が現場を見てすごく感動してくれたのです。見たこともない世界ですから、本田の社員はとんとん拍子に人生を歩いてきた連中です。長い人は半年間住み込みで、短い人でも一、二か月一緒に生活しながら職業センターは出発しました、それが昭和49年のことですよ。

浅井 仕事によって得たものは？

出縄 よく皆頑張ったと思います。やっぱり働くことは本人の自信になるし役に立つ。

本田の社員もクリスマスには毎回来て励ましてくれます。すごい誇りに思うって言ってます。

貰ったもので一番大きいのは誇りだと言いました。人間としての誇りを獲得して行くわけですよ。仕事につく、生産に参加することが一番近道と言うのが、井深理論なんです。それに啓発されていましたから利

用者を含めて、職員も、社会の人も会った人の皆が繋がるのです。

ー職業センターと地域のかかわりー

浅井 今までの話をしてくれて創設の時にまつわるいろいろなものが、いろいろな形で繋がって広がって、今日がある。そういう感じなんですね。

出縄 浅井さんのおっしゃる通り。地域から「保育園も社会事業ではないのか。お前から出来ないのか」という要望を受けて保育園を始めたんです。

それは地域からの要望を受け、我々は地域でお世話になっていてそのお返しとしてはじめたのです。

浅井 施設建設はどうなされたのですか。

出縄 職業センターを作る時に大分離れた地域ですから、我々としても地域性が全くありません。いわゆる外から入ってきた者です。平塚の土屋の地域の方は、施設を知りませんから今ある所を見せて貰いたいと言って、視察にきました。

施設や作業室を見て、児童施設も見てもらいました。児童施設の一部の人を何とか大人の世界に入れたい。残りの子供たちは七沢に作るリハビリテーションセンターにお願いするという説明までして、理解してほしいとお願いしました。

その中でうさぎ型の人がいて、万が一施設が出来たりしても近所に迷惑をかけないように全部フェンスを立てて欲しいという要望があり、それが最低条件だと言われました。

そして施設を見た帰り掛けに保育園を見て、あれは何だと言うので私どもが「地域の要望でやっている保育園で地域のお子さんたちです」と答えました。

「ちょっと見たい」と言われたけど土曜日で誰もいない。たまたま親の会の役員会がなされていて理事長と副理事長は席を外れ直接話をさせてほしいと。施設がどんなものか聞かれたと思うんです。

その日の夕方、先方から電話がありまして、昼間フェンスを立てるように言ったが、撤回すると保育園のお母さんに話を聞いて俺の方が悪かったという感じでした。保育園を地域への感謝の気持ちとして始めたことが、逆に進和を助けてくれました。そういうことに繋がるのです。

確かに地域の人も人間ですから、地域に根づくというのは当たり前ですけど、浅井さんが農家に行って手伝ったことは語り草になっています。皆、古い連中は浅井さんを知っています。

うちの前理事長の兄も含めて若者たちの情熱みたいなもの、地域を含め、回りを巻き込んでいき相乗的な作用、知的障害の人たちの純粋さとかね、一途さみたいなもの、やはり理解されてくるんだと思います。

だからそういう意味で助けられています。当時の最初の進和学園を作った人たちの想いというか、志みたいなのが今でも支えてくれていると痛切に思います。

私もずっとこの道に携わってきていますけど、忘れて行くのですよね。何かある時

に思い出します。普段それを想って仕事をすれば、もう少しまともな仕事出来るでしょうけど。

ー関西旅行ー

浅井 私は創設期にかかわりを持ちました。そんなに長期ではないが、もっとも濃縮な時を過ごさせて貰いました。進和学園での利用者との関西旅行は、一番の思い出ですね。

出縄 あれは有名な話ですよ。

浅井 施設の児童たちは修学旅行などできなかったのも、明夫さんとさせてあげたいと考えましたが、先立つものは費用。そうしたら明夫さんが、とろろ昆布を園長自ら売って歩いたのですよ。その金で行こうということになって、皆に話したら特急では行かないと石塚さんが言いだし、特急では駅が飛ばされ可哀想とか、駅弁が食べたいとかそれなりの理屈付けはありました。皆は特急。石塚さんだけ頑として譲らない。そこで私が集団の中の個の意見を吞もうとすることで、先発隊として行きました。その時の俳句が私の処女句集「一貫」に乗っています。

出縄 特急に乗りたいという思いの実現ですが、ただ当時は施設は外へ行くことは認めてはいませんでしたから。

浅井 後の紅梅学園のハワイ旅行のときと同じです。措置費で旅行とは何ぞやという感覚。

出縄 それを何とかお願いし、その資金をめぐっては、さっきのとろろ昆布で、一切

措置費を使わないで行こうという気概で行くわけですよ。措置費を使っちゃいけないと言うんですから。浅井さんが先発隊で石塚タカシさんと先に行きましたが、旅は弁当を食べながら行くというのが彼の持論なんです。それに巻き込まれたわけなんです。最終の夜行列車で行ったんでしょう。

兄は良く言っていましたけど、この話が中央学院事件という八王子の施設が子供たちを不当に労働させてかすめ取ったことの裁判で裁判長が判決の前の論しに、関西旅行が取り上げられ出ちゃうんですね。

このことが読売新聞の編集手帳に取り上げられ、ちょっと有名になりました。「こういう施設もあるではないか、それなのにあなたのやったことはどういうことですか」という論しに使われました。どこで兄か浅井さんが書いたのを、目に触れたのかわかりませんが。

浅井 あの時、施設の前の二見さんがボランティアで付き添ってくれましたね。

出縄 そうです。分かれての旅では職員が足りません。日頃の援農などのつき合いをしていた効果ですよ。

—森ヒデオさんのこと—

浅井 地域は本当に協力的で助かりました。古い園生元気ですか。50年過ぎていますから。

出縄 実はね。森ヒデオさんが昨年3月5日に亡くなったんです。森さんは職業センターの後、あさひホームで元気に老後を

過ごしていたんです。入院していて肺炎で亡くなったんです。30年位職業センターで働いていました。



通夜の遺影が職業センターの時の制服制帽なんですね。彼は兄弟仲良かったですから、しゃれた写真がいっぱいあるんです。でもお姉さんとお兄さんの選んだ写真は、職業センターの時の写真だったんです。普通ならもっと余所行きの写真を選ぶじゃないですか。なんか胸一杯になっちゃいましたね。もしかしたら強引なやり方で、一緒に働かせちゃったっていう思いがいつもあったんですけど。なんか認められたというか。家族も含めて森さんに取って一番いい時代だったんじゃないかなってそういう思い出の写真だったなって思っていますね。

なんかホッとしたというか職業センターが始まって40年経ちますけれど、40年前を思い出しますね。森さんも重度の方だったので、一般就労は無理でしたけれど本人は意欲満々だった。だから10年でも20年でもいい、そういう一生懸命没入できる時期があったということがね。

浅井 いや涙が出る話ありがとうございます。そういう機会を与えることができるようにするのが我々の仕事ですよ。能書き

言うより実践が大事だと思いますし、それが彼らの暮らしの中で自然と生かされることが必要ですね。今の話で出縄さんが「なんかホッとしたと言われましたが、その謙虚さに感心いたしました。若い人達には謙虚さを感じてもらいたいですね

—明夫さんのこと—

浅井 最後に明夫さんは進和学園だけでなく、知的障害福祉へのかかわりも含めて、話しをしたいと思います。神奈川県愛護協会が設立されたのは昭和38年ですが、明夫さんが会長をされたのは前田直蔵先生の後を受けて、昭和57年4月22日から昭和63年4月21日まででした。

この間、昭和57年9月1日くりのみ学園開設、昭和58年県やまゆり計画第一号三浦しらとり園開設、昭和59年には、県立柿生学園、愛名学園廃園。同年6月23日くりのみ学園小林聡太郎氏退任。12月5日経営悪化、法人再建のため役員に就任。秦野精華園の民営運営等もありました。

出縄 今と違って県愛護協会もオーナーの時代で民間施設長も大物でした。兄貴も出ることが多かったですね。

浅井 昭和47年7月11日に素心学院の坂田院長が亡くなられてすぐに県民間協同会が発足します。

紅梅学園の菅寿子園長は自分の施設の常務理事の守永さんを素心に出すのですね。こんなこと出来るのは覚悟がいりますよ。菅さんだから出来たのですよ。

明夫さんも「くりのみ学園」の問題の時の対応は、進和学園に多くの影響を与えました。進和から人を出さねばということがあって、自分の弟の現理事長か、または保育園を担当していた青木さんか、悩みますよ。私は「青木さんを出すのが本当ではないの」と言いました。内部の問題の方が大事ですもの。

出縄 やっぱ相談に依っていたか。

浅井 結果的に落ち着くところに落ち着いたわけ。この時県は西田さんで課長だったかな。

出縄 課長代理ですよ。

浅井 多くの方は、経営が悪化して役員以下が交替させられたことは知っていますが、具体的な点はともかく、そこにいる人にとっては分岐点ですよ。秦野精華園の民営化の問題の時もそうです。県協会会長の時でしたから、責任もあったでしょう。神奈川の福祉は進和学園だけの問題ではない。広い視野を持っていました。

オール愛護と言いつつ平成2年4月1日、秦野精華園がかながわ共同会による経営となり、その園長になられるわけですから。これもなかなか出来ないことですよ。あの時バイクを使われていたのではなかったか。園長をやめられる前にも私のところへ来られてどうかという話がありました。突然のことが多かったですね。

私は、血判状の時以来、覚悟の人という思いはありましたが、先人は前田・菅・廣瀬・安達・三木さん等々これに賭けた覚悟があり、

対談

若い者との違いを示されていました。

出縄 同感ですね。覚悟は決まっていた。

浅井 私はこうした人たちに支えられてやって来ましたね。

出縄 かならず浅井さんが絡んでいることが多い。

浅井 絡んでいるのでなく頼まれるからですよ。

出縄 そういう素材なんだ。だからうちの兄はあなたを頼りにしていました。「くりのみ学園」にしても、みんなそこで運命が変わってくるんです。青木さんにお前さんが行くか、俺が行くか引導を渡した。当時の愛護はそういうつながり、結束が強かったですよ。

浅井 決断すればそうになってしまう。

出縄 だからくりのみ学園を何とかと言っても、県から相談がある。私は反対と言う。現実には表だけでない。人も取られました。

浅井 記録として残るものではない。

出縄 くりのみ学園救済は前田先生も長くかかわった私はそういう意味ではあまり役に立てていない。くりのみ学園が秦野精華園につながるわけですからね。もしかしたらよい時代であったことは間違いない。

浅井 知的障害でなくても、黒川フジさんや澤田美喜さんもいました。黒川フジさんには、措置に甘んじてはいけませんと言われました。

出縄 澤田さんは突然嵐のように進和に來まして知的障害の人たちを押しつけて行き

ました。結構苦労しました。

浅井 すごい傑物ですよ。

出縄 今と違い福祉関係は狭いので、枠を越えての付き合いがありました。若者に親しく口をきき入れてくれました。

浅井 県職員では海老名正吾さん。居候でいた息子にあんた親父の下にいたのかと言われました。

出縄 グループホームにいたのですが脳梗塞で倒れ、もうグループホームに帰ること、出来ない。歩行器がないと歩けない。彼は15歳から知っていますからね。秦野精華園に入りましたが結局戻ってきました。

浅井 県に入った時の最初の任地が中央児童相談所で、海老名所長でした。進和学園の50数年の経過で亡くなった方も多いですね。

出縄 職員なんかも次々に。

浅井 鎌倉学園高校出の川松さん。ボランティアに來て職員になった方。

出縄 皆頑張ってくれましたね。

浅井 懐かしいですね。

出縄 人との接触が薄くなりましたかね。

浅井 今の若い人には出合いを大事にしてもらいたいですね。私など清和会に行くなど思いもよりませんでした。50数年前の松田カズミさんに会わなければ、小川譲三さんの印象に残らなかったでしょうし、清和会にも行かなかったでしょう。小川譲三さんは、ある意味では進和学園や清和会に引いては知的障害福祉に大きく貢献した人かも知れません。

対談

出縄 いろんな人と出合い協力していただいていますね。

浅井 私は県にいた時より民間にいる方が長くなりましたね。民間にもどって來て黒子に徹したいと思っていました。昨年理事長にさせられてしまいました。何もなかった時代で施設作りをしました。清和会に來て家族からの寄付は受けないで福祉の充実を図りたいということで県を辞めてやって來ました。私の哲学です。進和にはまだ及びません。

出縄 よくやられるよ。覚悟が違う。

浅井 私はまだ覚悟が弱い。

出縄 大先輩の影響は大きいですね。神奈川県は福祉の先進県だったのですが、その中で若い時代を過ごさせていただき、幸せだったのかもしれない。ですから知的障害福祉は自分で背負っている気持ちになってましたから、例え一時的でもそれは先人のお陰なんですね。浅井さんと同様、黒子に徹しますよ。

浅井 明夫さんは進和の50周年を済ませて亡くなったのは本当によかったと思っています。

出縄 お陰様で助けられて來た人間ですから、思い残すことはないと思ったらあれですけど、男としてはよい生き方をさせていただいたと思いますね。

浅井さんをはじめ、いろいろいままでの皆さんのお陰だと思います。本当によくこの頃わかるようになりました。5年前亡くなりました。今年生きていれば90歳

ですから、私は79歳です。11年違います。だから兄といっても年齢が離れていますので、半分兄半分父親という感じですかね。三分の一位父親かな。私は意気地なしなので兄に逆らえなかったですね。

浅井 だけど頑固なところあったよな。俳人は頑固なところがないと駄目ですけど。

出縄 頑固でしたけど、必ず浅井さんなり、私なりの意見は尊重してきましたからね。生きて行くということは、迷惑をかけるということですから。

浅井 私のところには岐路の時、訪ねて來られましたよ。

出縄 いやあすごい頼りにしてましたよ。羨ましいような関係がありました。立場も違ってね。浅井さんは、瀬田先生（湘南病院理事長）や三谷先生（県会議長）、松本先生（鎌倉女子大学長）といった方を理事にされて、傑物を理事にして良くやりましたね。

浅井 皆さん亡くなられましたが、助けてもらいました。何て言いますか、これからも元気で進和の良いところを次の時代に進めて下さい。本当に有り難うございました。

